

平成28年度

事 業 報 告

(平成28年1月1日～12月31日まで)

公益社団法人 競走馬育成協会

平成 28 年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

概況

平成 28 年度の中央競馬はダービーや有馬記念を中心に 1 年を通じて順調に推移し、発売金は対前年比 103.5% となり 5 年連続で増加という良好な成績であった。

育成業界が注目している 2 歳トレーニングセールにおいては、前年の平成 27 年に千葉サラブレッドセールが好調だったことに牽引されて全体の成績が押し上げられていた影響により、平成 28 年度は全体的に平成 27 年度を下回る結果となった。しかしそれ以前との比較では JRA プリーズアップセールを除いた集計で、売却頭数・売却総額・平均価格のいずれもが平成 26 年以前の成績よりも上回っており、盛況な市場を維持しているといえる。

このような情勢の中、当協会は平成 28 年度も様々な事業を展開してきた。

育成技術講習会については、東西トレセンと北海道で実施した講演内容が「乗馬における馬術技能を競走馬における調教技術へ応用し馬術と競馬の融合を図る」という多くの馬関係者に興味深い題材であり、広く会員以外の聴衆も惹き付けて大変な盛況ぶりであった。

就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、就職協定の動向などを考慮したメインフェアの 6 月開催や乗馬関係者への広報相談コーナーの新規参入、あるいは SNS の開設といった新たな施策を含めて、関西フェアの開催、牧場見学会や牧場で働こう体験会の実施、ウェブサイトの充実等が 1 年を通じて間断なく運営された。

競走馬育成技術表彰では、近年会員育成馬の優勝する競走の該当率が高い状態を維持しており、会員牧場の育成技術の確かさが示されている。また、開催場表彰の対象となる重賞 2 歳ステークス競走では全 6 競走のうち 4 競走において会員の育成馬が優勝し表彰を受けた。

その他にも、修学奨励金交付、海外派遣研修、競馬関連機材の有効活用、利子補給、リース事業仲介、情報誌発行等の事業を展開した。

1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

軽種馬の生産、育成、調教に関する知識と技術の向上を目的とした講習会を当協会の全 5 支部で開催した。開催にあたっては広く一般にも参加を呼びかけ、日本中央競馬会（JRA）及び公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）との連携・共催で実施した。

特に東西トレセンと北海道で実施した講演内容は、乗馬における馬術技能を競走馬における調教技術へ応用して馬術と競馬の融合を図るという多くの馬関係者に興味深い題材であり、広く会員以外の聴衆も惹き付けて大変な盛況ぶりであった。講演の様子は協会のホームページから動画配信するとともに資料の添付も実施して、参加できなかった一般の方々に向けても広く普及に努めた。

支部	開催月日／場所	講習内容	講師	参加者
東北	9月14日 八戸家畜市場	生産地における軽種馬の栄養管理	松井朗氏／JRA 日高育成牧場	34名
九州	9月27日 JBBA九州種馬場	生産地における軽種馬の栄養管理	松井朗氏／JRA 日高育成牧場	36名
北海道	10月26日 新ひだか町公民館	競馬術－競走馬に必要なハミ受けとは－	北原広之氏／JRA 馬事公苑	218名
関東	11月9日 美浦トレセン	競馬術－競走馬に必要なハミ受けとは－	北原広之氏／JRA 馬事公苑	280名
関西	11月16日 栗東トレセン	競馬術－競走馬に必要なハミ受けとは－	北原広之氏／JRA 馬事公苑	275名

育成技術講習会の受講者数の推移

平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
234人	449人	748人	490人	573人	306人	843人

2) 競走馬育成調教技術表彰事業（共益事業）

競走馬の育成調教の技術向上を図り、育成調教者の基盤強化及び意欲増進を図るため、優秀な競走成績を収めた競走馬の育成調教者に対する表彰を実施した。

表彰対象 507 競走のうち 275 競走において会員の育成馬が優勝し表彰された。新馬競走では表彰件数が若干減少しているが依然として 70%以上の高い表彰該当率を維持しており、一方で3歳以上の重賞で表彰件数が増えていることから、全体で5競走の減少に留まり平成26年以降続いている54%以上という高い表彰該当率を維持している。

また、競馬施行場で育成協会会長賞表彰を実施する重賞2歳ステークス競走6競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）については、対象の6競走中4競走で当協会会員の育成馬が優勝しウイナーズサークルにおける表彰を受けた。

対象競走	平成28年度			平成27年度		
	競走数	表彰件数	該当率%	競走数	表彰件数	該当率%
2歳新馬	231	164	71.0	228	172	75.4
3歳新馬	55	41	74.5	57	47	82.5
2歳重賞 ※1)	18	13	72.2	18	13	72.2
障害重賞	10	1	10.0	10	1	10.0
3歳以上重賞	114	40	35.1	112	29	25.9
3歳以上平地オープン ※2)	79	16	20.3	76	18	23.7
合計 ※3)	507	275	54.2	501	280	55.9

- ※1) 2歳重賞指定交流競走（地方競馬施行）の4競走含む
- ※2) 3歳限定オープン競走を除く
- ※3) 平成27年度の表彰件数は平成28年1月以降に追加となった1件を加えて記載

2. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材の確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することによって就業者の参入を促進するため、当協会を中心に JRA・BTC・公益社団法人日本軽種馬協会（JBBA）・一般社団法人日本競走馬協会の5団体で牧場就業促進事務局（BOKUJOB事務局）を構成して各種事業を展開した。

① 牧場就業促進ウェブサイトの運営

BOKUJOBのウェブサイトは、就職先としての生産育成牧場の認知や牧場での仕事に関する情報の提供を目的に平成22年度に開局された。近年はその認知度がさらに向上し平成28年度も安定したアクセス数を獲得した。

アクセス数を検索するソフトが平成26年と27年に大きく仕様変更されたため、現在の検索ソフトを利用して再検索可能な平成25年度のデータまで遡り、現在のカウント方法の定義等に従って再調査をかけた。その結果、延べ利用者数は平成26年から28年にかけて約15万人から16万人で推移し、実利用者数は平成27年から28年に約9万人に迫るまで増加してきた。また、平成27年度からスマートフォン用サイトを開設したこともあり、利用者数のうち半数以上がスマートフォン利用者となっていた。

	延べ利用者数	利用者数	スマホ利用者(内数)
平成25年	107,935	28,345	11,494
平成26年	157,194	54,585	28,722
平成27年	160,488	87,994	51,302
平成28年	148,923	88,473	54,641

② BOKUJOB メインフェア 2016（東京競馬場）

就職協定の変更や高校生の就職活動の動向を考慮して、平成28年度は6月のイベントを中心に集中開催することとした。したがってメインフェアは、平成27年のGI安田記念施行週にPRイベントを実施したのと同時期同場所で開催した。

初めてSNSを開設し若年層に向けて広報展開したことに加えて大学生の就職活動解禁直後ということもあり、目的に真摯な世代の来場者が倍増して熱気あるイベントとなった。

6月4・5日（土・日）東京競馬場 フジビュースタンド1階イーストホール
出展 21 牧場・JBBA・BTC・装削蹄協会・日本軽種馬青年部連絡協議会
静内農業高校教諭の進路指導・競走馬のふるさと案内所
来場者 254 名（保護者他 131 名）、その他見学者 394 名

③ BOKUJOB 関西フェア 2016（阪神競馬場）

G I 宝塚記念施行週に開催日開催競馬場で実施される BOKUJOB 関西フェアは、関西地区での BOKUJOB 活動として定着しつつある。このことから平成 28 年度の関西フェアも、牧場との直接対話の場としてさらなる認知度の向上を見据え、同時期同場所で開催した。

対象となる世代の来場者数は昨年同様ではあったが、若年層向けの広報展開の効果もあり、滞留時間が長く目的に真摯な来場者が多くなっていた。

6月25~26日（土・日）阪神競馬場 アメニティホール
出展 7 牧場・JBBA・BTC・日本軽種馬青年部連絡協議会・競走馬のふるさと案内所
来場者 174 名（保護者他 105 名）、その他見学者 102 名

④ 広報&相談コーナーと PR ブース

広報&相談コーナーとしては、平成 28 年度から新たな試みとして、乗馬に携わる関係者へ BOKUJOB 活動を拡大展開し、より馬に係わる人々に牧場での仕事内容や生活等への理解を浸透させるため、以下の各会場にブースを設置し BOKUJOB 活動の広報や牧場業務に関する相談等を実施した。

- ・馬事公苑 ホースショー 5月3~5日 来場者 74 名
- ・御殿場インターハイ馬術会場 7月21~22日 来場者 24 名
- ・宮崎育成牧場 馬に親しむ日 8月28日 来場者 18 名

さらに、ジョッキーベイビーズには多くの馬関係者が関与していることから、新たにジョッキーベイビーズに協賛することにより関係者に BOKUJOB 活動を拡散するとともに、その当該節開催日には一般来場者向けにも広報&相談コーナーを開設した。

- ・東京競馬場 10月8~9日 来場者 54 名（ジョッキーベイビーズ協賛）

また、フェアを開催する地域から離れた場所の潜在的ニーズの掘り起こしのために、各競馬場にブースを設置して BOKUJOB 活動の広報や牧場業務に関する相談等を行なう活動を、平成 28 年度も継続して実施した。

- ・中京競馬場 7月16~17日 来場者 41 名
- ・札幌競馬場 8月13~14日 来場者 32 名（JBBA・BTC 研修案内）
- ・小倉競馬場 9月3~4日 来場者 36 名

一方、中山競馬場 JRA ブリーズアップセール・札幌競馬場北海道トレーニングセール・ノーザンホースパークセレクトセールといったセリ市場の際に PR ブースを設置し、

BOKUJOB 活動の広報や PR を実施した。

⑤ 牧場見学会

関東関西それぞれの地区ごとに一般公募で参加者を募り、若手従業員との質疑応答等を交えた牧場見学会を土曜日に日帰りで実施した。

関東地区 3月5日 参加者 26名

協力牧場：ビッグレッドファーム鉾田、KS トレーニングセンター、松風馬事センター

関西地区 3月12日 参加者 25名

協力牧場：グリーンウッド・トレーニング、信楽牧場、ノーザンファームしがらき

⑥ 夏休み牧場で働こう体験会

全国公募で参加者を募り夏休み期間を利用して、牧場での就業体験・体験乗馬・BTC 研修体験学習・JBBA 研修見学・JRA 日高育成牧場講義・スタリオン見学等のカリキュラムを5泊6日で実施した。なお、平成28年度は牧場体験滞在を2泊とし、体験受入牧場を静内地区にも広げて実施した。

7月31日～8月5日 参加者 16名

体験受入牧場：宮内牧場、杵臼牧場、辻牧場、高村牧場、グランド牧場、岡田牧場

2) 担い手育成事業

生産育成調教牧場で働く意欲ある人々に必要な能力として馬に関する知識と技術を開発し向上させるため、研修機関への修学や海外研修を援助した。

① 修学奨励金交付事業

BTC が実施する育成調教技術者養成研修の平成28年度入講生2名に対して、修学奨励金を交付した。

② 生産育成技術者海外派遣研修事業

生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修は、BTC からの推薦者5名をアイルランド競馬学校 (RACE) に約3か月間 (5月6日～8月3日) 派遣した。

長期研修としては会員牧場の従業員3名について、2名をアメリカ (3月6日～6月2日、8月10日～11月8日)、1名をオーストラリア (8月30日～11月22日) にそれぞれ約3か月間派遣した。

短期研修は2件実施した。一つは会員牧場及びJBBA 会員牧場の従業員等6名をオーストラリアに7日間 (10月29日～11月4日) 派遣し、もう一つは会員及び会員牧場の従業員等8名をイギリス・アイルランドに8日間 (11月6日～11月13日) 派遣して、生産育成牧場、種馬所、厩舎、競馬場、競馬学校等で研修を実施した。

3. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（公益事業）

1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果がセリ市場取引に反映されるよう支援に努め、2歳トレーニングセールの支部による後援等を実施した。

2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設等の整備のために会員が借り受けた資金の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、平成28年度は継続2件の利子補給を実施した。また、数件の新規案件の相談を受け準備を整えた。

② 畜産環境整備リース事業

家畜排泄物適正管理のための施設や機材の貸与によって畜産環境問題に対応するために、一般財団法人畜産環境整備機構の行う畜産環境整備リース事業について、平成28年度は会員への継続再貸付1件に関する委託業務を実施した。

③ 競馬関連機材等有効活用事業

JRAの施設等で使用を取りやめた競馬関連の機器・資材などを有効に活用するため、平成28年度は散水車2台、ユニモグ1台、ハロー2台、馬場柵1セットについて抽選を行ない斡旋を実施した。

④ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、平成28年度は会員からの新規申請は無かった。

4. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

軽種馬の飼養管理及び育成調教技術の普及並びに改善向上に役立つ情報を提供するため、平成28年度も機関誌「いくせい」の54号（9月30日付）を発刊した。

また、協会ホームページ等を利用して、育成技術講習会の内容等の育成調教に係わる情報を広く一般市民にも閲覧可能な形で提供発信した。

5. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

1) 総会の開催（定時総会）

2月26日15:00～ JRA本部9階 第1会議室

議案：平成 27 年度事業報告及び計算書類について
平成 28 年度会費等の額及び徴収の方法について
理事の報酬等の額について

2) 理事会の開催

① 第 1 回理事会（定例）

2 月 5 日 14：00～ 新橋分館 4 階会議室

議案：平成 27 年度事業報告及び計算書類について
平成 28 年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）
総会における議決権行使書及び委任状について
業務委託費の配分方法について

② 第 2 回理事会（臨時）

2 月 26 日 14：00～ JRA 本部 9 階 第 2 会議室

議案：平成 28 年度定時総会の委任状の取り扱いについて

③ 第 3 回理事会（定例）

12 月 9 日 14：00～ 新橋分館 4 階会議室

議案：平成 28 年度予算補正について
平成 29 年度事業計画及び収支予算等について
セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントの防止等に関する規則の制定
について

④ 書面理事会（定款第 41 条）

3 月 3 日	入会の承認	1 件
11 月 11 日	入会の承認	2 件
12 月 5 日	入会の承認	1 件
12 月 20 日	入会の承認	1 件

3) JRA との育成等に関する懇談会

9 月 30 日 10：00～ JRA 本部 9 階 第 3 会議室

懇談内容：セリ市場の動向について
育成牧場における人材確保（BOKUJOB）・養成について
育成技術表彰事業について
育成牧場の基盤強化対策について

4) 協会の組織

① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
平成 27 年 12 月 31 日	85	8	40	29	15	177	8
増加	1	1	2	1		5	0
減少	1			2		3	0
平成 28 年 12 月 31 日	85	9	42	28	15	179	8

② 役員の動向

平成 28 年度は役員改選を実施しなかった。

会長理事	栗田晴夫	非常勤	
副会長理事	佐藤光信	常勤	常務理事兼務
副会長理事	飯田正剛	非常勤	
理事	高橋司	非常勤	
理事	荻野豊	非常勤	
理事	諏訪豊蔵	非常勤	
理事	沖崎誠一郎	非常勤	
理事	中内田克二	非常勤	
理事	柏木務	非常勤	
理事	宮島成郎	非常勤	
理事	織田信美	非常勤	
監事	安達正奉	非常勤	
監事	杉野繁治	非常勤	

③ 職員等の動向

平成 27 年 12 月 31 日	就任・転入	退任・転出	平成 28 年 12 月 31 日
3 名	1 名	1 名	3 名

5) その他監査・検査等

○ 内閣府公益認定等委員会による立入検査

12 月 19 日 新橋分館 4 階 会議室

内容：平成 27 年度事業報告に沿った事業内容説明・経理関係書面検査